

呉工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	環境都市工学演習Ⅳ	
科目基礎情報							
科目番号		0138		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		環境都市工学科		対象学年	5		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		大田 一夫					
到達目標							
1. 資格試験問題などの情報を収集することができる。 2. 資格試験などの目標を設定し学習計画を立てることができる。 3. 計画に沿って学習を進めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		資格試験問題などの情報を収集することができる		資格試験問題などの情報を収集することがある程度できる		資格試験問題などの情報を収集することができない	
評価項目2		資格試験などの目標を設定し学習計画を立てることができる		教員や友人の力を借りながら資格試験などの目標を設定し学習計画を立てることができる		資格試験の対策のために学習計画を立てることができない	
評価項目3		計画に沿って学習を進めることができる		計画に沿って学習を進めることができる		計画に沿って学習を進めることができない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC) JABEE 環境都市 (H)							
教育方法等							
概要		これまでに学習してきた内容を生かし、資格試験演習を行うことで理解を深めることを目的とする。					
授業の進め方・方法		「2級土木技術者」、「技術士第一次試験」などの資格試験について各自で目標設定を行い、自己学習を行う。加えて、より中長期的な視点から、「技術士第二次試験」の資格試験問題も取り上げる。					
注意点		単位取得のためには、実施計画、演習で取り扱った課題、達成度の自己評価などのポートフォリオ提出を必須とする。 。 関連する科目の教科書、ノート等を持参すること。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス				
		2週	情報収集				
		3週	学習計画の策定				
		4週	自己学習の実践				
		5週	自己学習の実践				
		6週	自己学習の実践				
		7週	中間試験				
		8週	中間試験までのふり返り				
	4thQ	9週	自己学習の実践				
		10週	自己学習の実践				
		11週	自己学習の実践				
		12週	自己学習の実践				
		13週	自己学習の実践				
		14週	ポートフォリオの仕上げ				
		15週	期末試験				
		16週	まとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	構造	断面1次モーメントを理解し、図心を計算できる。	4	後2	
				断面2次モーメント、断面係数や断面2次半径などの断面諸量を理解し、それらを計算できる。	4	後2	
				各種静定ばりの断面に作用する内力としての断面力(せん断力、曲げモーメント)、断面力図(せん断力図、曲げモーメント図)について、説明できる。	4	後3,後4	
				トラスの種類、安定性、トラスの部材力の意味を説明できる。	4	後6	
				節点法や断面法を用いて、トラスの部材力を計算できる。	4	後6	
			ラーメンの支点反力、断面力(軸力、せん断力、曲げモーメント)を計算し、その断面力図(軸力図、せん断力図、曲げモーメント図)を描くことができる。	4	後5		
		地盤	土の生成、基本的物理量、構造などについて、説明できる。	4	後12		
			土の粒径・粒度分布やコンシステンシーを理解し、地盤材料の工学的分類に適用できる。	4	後12		
			土の締固め特性を説明できる。	4	後12		
			ダルシーの法則を説明できる。	4	後13		
透水係数と透水試験について、説明できる。	4		後13				

				透水力による浸透破壊現象を説明できる。	4	後13
				土のせん断試験を説明できる。	4	後12,後14
				地盤内応力を説明できる。	4	後13,後14
				土の圧密現象及び一次元圧密理論について、説明できる。	4	後13
				圧密沈下の計算を説明できる。	4	後13
				有効応力の原理を説明できる。	4	後13
				ランキン土圧やクーロン土圧を説明でき、土圧算定に適用できる。	4	後14
				基礎の種類とそれらの支持力公式を説明でき、土の構造物の支持力算定に適用できる。	4	後16
			水理	静水圧の表現、強さ、作用する方向について、説明できる。	4	後8
				平面と曲面に作用する全水圧の大きさと作用点を計算できる。	4	後8
				浮力と浮体の安定を計算できる。	4	後8
				完全流体の運動方程式(Eulerの運動方程式)を説明できる。	4	後9
				比エネルギー、フルード数、常流と射流、限界水深(ベスの定理、ベランジェの定理)、跳水現象について、説明できる。	4	後9
				層流と乱流について、説明できる。	4	後9
				流体摩擦(レイノルズ応力、混合距離)を説明できる。	4	後9

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	20	0	0	0	30	0	50
分野横断的能力	20	0	0	0	30	0	50